

安曇野市長 宮澤 宗弘 様

安曇野市議会
議長 宮下 明博

安曇野市における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に対する提言について

まち・ひと・しごと創生法では、その目的で、我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけることを掲げています。

このことは決して他人事ではなく、この安曇野市の住みよい環境を将来にわたって維持しつつ、市民ひとりひとりが潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を形成していくためには、安曇野市にあった独自の施策を確実に展開することが急務と認識しております。

こういった状況を踏まえ、市議会では、今一体どんなことが考えられるのかといったことについて、会派を中心に模索し、今般、会派等から提言が出されました。

これら提言については、市議会において意見集約を図るところではありますが、会派それぞれにおいて主義主張や思いといったものがあり、集約することが困難なことから、別添のとおり会派ごと纏め提言いたしますので、ご検討いただきますようお願い申し上げます。

「信誠会 提言」

1 働く・稼ぐ

働く場の創出により、市外流出を食い止め、さらに市外から移住を促進することが可能となる。

(1) 雇用の創出

産業団地・大型ショッピングモールや大型宿泊施設・住宅団地等の開発とそこに働く求人を増やす。

例：安曇野インター東（80ha）の開発をし、優良企業の誘致や大型ショッピング商店街の誘致・公共施設等建設し、そこに働く求人を増やすこと。

(2) 新規就農支援

新ブランドの開発をめざした新規就農者や後継者育成のための総合的な支援メニュー（農業研修制度への補助金・研修生の増員・研修先）、の実施により、新しいブランド品を構築すること。

例：JAアグリサービスへ研修希望者増員・研修メニューの拡充、補助金の交付。現在研修者2名、現在研修メニュー 夏秋イチゴ 希望品目 ブルーベリー メロン 小玉スイカ

2 暮らす・癒す

本市特有の「恵まれた・豊かな自然環境」や「ゆとりある暮らし」「地域の支えあい」などの地域資源を活かし、潤いと賑わいのまちづくりに取り組み、良好な定住環境づくりが必要である。

(1) 若者等出会いの場創出助成

市民が自主的に企画運営する交流イベント等の経費の一部を助成する。

例：市民による交流委員会等団体に10万円の交付をする。安曇野市の観光地等で出会い希望者を募りイベント等を開催する。

(2) 小さな拠点づくり

コンパクトでスマートなまちづくりの形成

例：駅・学校・保育園・コンビニ・医者等公共交通で結ぶ小さな拠点づくり。南豊科駅周辺・一日市場駅周辺・有明駅周辺・明科駅周辺の住宅街の建設。

※田園環境区域から拠点区域・準拠点区域に変更。

※計画的に開発公社と連携し開発する。

(3) マイホーム取得助成

市内に住宅を新築又は購入した場合、一定の条件を満たす人を対象に助成する。

例：新築50万円、建売住宅購入100万円、購入者年齢別助成

3 育てる・学ぶ

安心して子供を産み育てられる、良好な育児環境の向上と、未来を担う子供たちの教育環境の整備と支援を行う。

(1) 子育て応援

3歳児世帯に対し、市内店等で利用できる商品券を贈ります。

例：5月1日現在3歳児の子に対して3万円、自治会加入していること条件

(2) 入学おめでとう『入学お祝い』

市内小学校の入学時に、市内店を利用した祝い品を贈る。

例：ランドセルの寄贈

(3) スポーツ大会の育成

公式スポーツ大会開催、県レベルおよび国レベルの大会を開催し安曇野のスポーツの関心の高さをアピールする。

例：テニス・バレーボール・バスケット・バトミントン等の大会を開催し市外から誘客を推進する。

「政和会 提言」

(表題番号は市の基本目標区分による。)

1 安曇野インター東の開発による土地利用を考える

・雇用の場や農産物のPRや販売増につながる。ただしJAあづみの施設が近くに整備されることから、協力・連携が欠かせない。

日本の集客数ナンバー1はTDL(東京ディズニーランド)、ナンバー2はUSJ(ユニバーサルスタジオジャパン)であるが、ナンバー3の刈谷サービスエリアを目指したらどうか。

2 在宅勤務で育児支援

・インターネットなどを使って、職場と離れた場所で仕事ができる「テレワーク」等の立地、起業を促すための補助制度の創設を考える。

結婚・出産等で離職した女性や若者、起業を目指す人への働く場を創出できる。

・既存の高校・大学の安曇野キャンパス誘致を考える(移転を含める)

・空家の活用

3 幼(保)小中一貫教育で育てしやすいまちを

・幼・保から小学校入学時の「小1プロブレム」、中学校進学時に、いじめや不登校がふえる「中1ギャップ」の対応や、園児・児童・生徒達の交流拡大、教職員の情報交換等がより図れる。

・障がいのある子ども達のための居場所づくり

市では、段々と充実してきているが、まだ不足の状態にある。障がいのある子ども達の親も働いている人がほとんどであり、安心して子育てができ、かつ働くことができるために充実を考えたい。

・子ども用品のリユース、イベント開催。子どもは成長が早く、子ども用品は値段も割合高く、その割に長く使えない。

無料で回収し、ほしい人に無料で配布するイベント開催はどうか。特に中学校の制服等も考えてほしい。ごみの減量化と子育て支援に資すると考える。

・空家を子育て世代に提供する。

4 日本版 新たな高齢者移住構想

・当市は移住先として人気が高い。また医療機関も安曇野赤十字病院を中核として充実しているといえる。近隣市町村にも総合病院がある。生涯学習や社会活動の場もあり、一考の余地が考えられる。

・ヘルスツーリズムを進める。まず市民の健康寿命の延伸への啓発活動、観光や雇用の場づくりにつながる。

・歩いて回遊できるまちづくり。歩道を整備する。所々で腰を下ろして休める場所(例えば、空き店舗の活用)を整備して、歩いて楽しめるまちづくりをする。

一例として、豊科駅～市役所～近美・きぼう～防災広場～お寺や店舗～まちづくり会館～豊科駅へ戻る

この間、各商店ではベンチを出したり、季節の飾り付け、イベントの計画等をして、人を呼び込む工夫をする。(出発は駐車場を考えると、市役所でもよい)

「公明党 提言」

1 子育て関連

(1) 幼稚園への入園希望があることで、市では認定こども園化が進められている。現在、待機児童はないと報告されているが、実情は希望する園へ入園ができていない。

共働き世帯が増える中、松本市内への通勤が多いことは調査でわかっているので、送り向かえの利便を考えると、三郷東部保育園・北部保育園の拡幅建設を急ぐべき。

同時に保育士・幼稚園教員双方の有資格者化を急ぎ、保育の質の向上を望む。

(2) 多子世帯への助成はさらに進められているが、まず一人目も大事である。最初は一人から始まることから、保育料金等も見直すべきでは。

(3) 不妊治療費の更なる助成充実を望む。

2 雇用の創出と女性が活躍できるまちづくり

(1) 商業施設への雇用について、女性進出が多いことがわかる。安曇野インター東への企業誘致は、特に商業施設が有効。

農振除外のハードルはあるものの、早期に国へ積極的に働きかけ理解をして頂く必要がある。

(2) 農業加工施設の設置を望む。特にりんごを使った加工品は青森などでは盛んであり、調査研究をしてすすめるべき。

3 いきいきと暮らせるまちづくりと、移住定住施策

(1) 白地地域への集約を進める上で、不動産業者等と積極的な情報提供をし、空き家バンク制度の検討を望む。(住める空き家の調査)

(2) 若年世帯の持ち家率を上げるために、更なる独自の助成が必要。

(3) 83区で区への加入条件が異なっている。歴史的な問題があり難しいだろうが、区長手当等から平準化へ向けた取り組みを始め、移住者にいきなり負担を強いることがないようにすべき。

4 交流人口の増加

・安曇野市の持っているものを活かすことが大切。

特産品の選定。現在はわさび、りんごが主と見えるが、もっとあるはず。市民から多くの知恵を頂くべきでは。

・観光面では、外部発信を積極的にし(ロケ地支援等)一回は安曇野を知ってもらい、おもてなしを通じ、「また来てみたい、住んでみたい」と思ってもらえる施策が必要。

・広域連携が必要。周辺市町村とも地方創生について、会議をもってすすめる

「無所属議員 提言」

1 産婦人科医確保のための奨学金制度の創設

(信州大学医学部地域枠に安曇野市赴任医師養成枠を入れてもらう等を)

2 産前産後ケアのために開業助産師等に診てもらおうための受診補助券の支給

(3回分3枚程度以上の支給を)

3 病児保育の充実

(安曇野日赤及び他病院等での受け入れ態勢の拡大及び県立こども病院との連携強化を)

4 親子の居場所づくりへの支援及び創設

(「NPO法人子育て支援 ぱおぱお(三郷明盛)」のような施設への支援及び創設を)

5 外国人観光局誘致に役立つWi-Fi(ワイファイ)環境の整備増設支援

(外国人観光客等がよく訪問する場所(観光案内所、大王わさび農場、碌山美術館、高橋節郎記念美術館、田淵行男記念館等の美術館・博物館、交流学习センター、宿泊施設等)への整備増設支援を)

以下の提案は一致できない提言

○農業の6次産業化を大企業任せにしないで、農業者を主体として行政と農協で進めて雇用の場をつくる。

○人口どころか確実に減少する方向が避けられない中で、従来までの拡大成長ではなく、ダウンサイジング(規模の縮小化)を前提にして、これからのまちづくりを考えていく。

よって、総合戦略案はハード面ではなく、ソフト&ハード面に特化したものとした。

キーワードとしては、半農半X、自然保育、自然農、農家民宿、自然分娩などがある。いずれも短期的には高い経済効果を生み出すものではないが、都市生活をしている若手世代に対し、新たな価値観や生き方・ライフスタイルとして提案し、安曇野地域への移住促進策とする。

1 新たな雇用を生み出す/安定した雇用の創出

①創業コンテスト事業 創業×空き店舗活用×移住促進

都市部の若手世代を対象に安曇野での創業・起業を呼びかける創業コンテストを銀座NAGANOで行う。その際、上位入賞者には、移住時の費用補助、空き店舗の斡旋と家賃補助などのインセンティブを与える。創業・起業により、地域化活性化を起こせる人材に特化した移住支援。

募集はFB等のSNSで発信。また、コンテストの様子をあづみのテレビで中継する。

2 若者や女性が活躍できるまちをつくる/新しい人の流れを創る

①心のふるさと安曇野民泊事業 農家民泊事業のブランド化

今年度からの新規事業である農家民泊事業を発展・昇華させ「農家民泊と言えば安曇野」というようにブランド化していく。ブランド化にはネーミングが大事。案として、『心のふるさと 安曇野民泊』事業などはどうか。(再考必要)

初年度受入農家33軒、受入生徒数★人、売上★円。これが28年度は倍増する。

受入農家に市の観光施策における理念である『安曇野暮らし』についての講演勉強会を開く。

農家民泊以外にも、『心のふるさと 安曇野』事業に位置付けられるような施策、または新規施策を随時打っていく。

②自然保育体験事業 自然保育×滞在交流×移住促進

安曇野市における信州型自然保育認定制度の認定保育園(民間認可外、公立認可園)での自然保育体験ができる1泊2日の企画を都市部の子育て世代に発信し、安曇野の子育て環境の良さをアピールする。

県の信州型自然保育認定制度についての補助金を利用する。

③『ハッピー子育て』施策・滞在交流&出産編 自然分娩×滞在交流×移住促進

「いい出産ができれば、いい子育てがスタートする。」という考え方の元、市の自然分娩の助産師グループ、市内の小規模ペンションと提携し、都市部の子育て世代に、安曇野で自然分娩をすることをアピール。現状、産婦人科医が足りずに、地域内妊婦の出産も難しい状況にあるので、年間10組程度からでも。

ペンションで産前・産後ケアを行い、「私の子どもは安曇野で生まれたの。」というように、安曇野で自然分娩することをブランド価値にしていく。

滞在交流と将来の移住に繋がる。

3 安心して出産し子育てできるまちをつくる

①『ハッピー子育て』施策・産後ケア編

「いい出産ができれば、いい子育てがスタートする。」という考え方の元、市内の小規模ペンション、助産師会らと連携し、出産直後の3日間の産後ケアを市内在住の母親に行う。

4 いきいきと暮らせるまちをつくる／次代にあった地域を作り、地域同士の広域連携